明治二十四年三月三十日印刷
明治二十四年三月三十日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第十六號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第十六號

目次

病家の醫師に對する心得　芳賀榮次郎君

人の骨組に就て　大澤岳太郎君

肺癆療法新發明に付き素人方の心得　長與專齋君

衛生叢話

雜錄　數件

本會錄事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第十六號
明治廿四年四月一日發兌

講演

病家の醫師に對する心得（二十三年七月五日講演）

芳賀榮次郎君演說

私の演說は病家の醫師に對にする心得と云ふので、醫師の口からは甚た申し悪い嫌も有りますが、實は私も醫師の一人として大に心に感じた事が有りますから、夫れを一度貴婦人方に申し上て置いたなら、聊か御參考に爲るて有らうと存じまして、申し悪い事をも忍んで御咄し致す心得で御座います。中には御叱言を申すやうな事が出るかも知れませんが、失禮の段は前以て御斷り申して置きます。

醫師が病人を取り扱ふには「斯うしなければならん」「アヽしなければならん」と云ふ其規則は內務省から澤山に出て居る、故に醫師は隨分窮屈な規則にあてはまつて病人を取り扱つて居る、病人は大切な者、人の生命は大切な者であるから、醫師となつて病人を扱ふ以上は斯く〱に仕なければならんと云ふ規則を守つて居る。又醫師の本分としても病人を大切にするは醫術上の義務であるから、充分親切に致して居ります、其上醫術上の組合、則ち醫會てふ者を立てヽ互に醫師に不都合の無い樣、醫師は病人を深切に仕なければならんと云ふ事を戒めて居ります。所で病家の醫師に對する心得は何うであるかと云ふに、往々醫師の心を害する事が有る。醫師が病家を診察に往くのに、此方では充分盡して居る積りであるが、病家では夫程に受けて呉れないとか云ふ樣な事からして、大きに醫師も腹が立つて時としては其腹立ちを病人の方にまでも及ぼす樣になる。病人を取り扱うに深切にするのは、醫師の本分であると決心して出來る丈けの力を盡して居るのです。故に病

家でも醫師に盡すべき事は充分に盡して戴きたい、是れも又病家の醫師に對して盡さねばならん義務であるのです。

ソコで病家が醫師に對する心得の中で、先づ第一には醫師を撰ばねばならん、抑々醫師と云ふ者は人間が世の中に生活して居る以上は無くてならんものであるから、其醫師を定めて置くと云ふは最も必要なる事です、故に若し病人か出來たならば醫師を頼むのに、最も名望の高い、學問も有り、實地も經驗にもたけて居る(容貌も好い)何一ッ不足なき人を撰ぶが宜しい。勿論玆に御在の御方々は上流社會の御方だから、夫等の事は疾に御承知であるに相違ない、けれども貴婦人方の御宅にお出入をするものとか、下々の者に御交際か無いとも限らんから、ソウ云ふ人に聞せて置いて戴かねばならん、獨逸當りでは「フアミクーンアルット」と云ふて、家の醫者を定めて置く、又陸海軍抔で醫師を要するのは、兵士が病氣の時治療をさせる斗りでなく、衛生上に關した事は大小となく皆其軍醫が掌つて居るのです、宮内省なれば侍醫が宮内の衛生を掌つて居る、夫れと同じで貴婦人方のお家でも、矢張り一家を立てゝ居る以上は衛生上の注意を要する點は夥しく有りますから、家醫を定めて置いて假令病人は無いにせよ、今日の生活上衛生に關した事は皆其醫師に任せるが宜しい、例之は飲食物の善し惡し、衣服の事、住所の事、凡て一應醫師に相談し然る後行うが宜しう御坐います、平生醫師と交際して居るのは誠に便利な者で、衛生の行き屆く事又是れより好い事は無い。又醫師の方でもソウなつて居れば、此家は何う云ふ家だ、何う云ふ氣質の方々だと云ふ事も、お子さんは何人有ると云ふ迄でも承知して居るから、病氣の時治療するのも、藥の盛り方分量等も此人には是れが利く利

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かんと云ふは直ちに分るから、病氣も自然早く癒る、殊に小兒抔は初めて診察する時は、重い病氣を輕く取つたり、輕い病氣を重く取つたりする事が有りますが、最初から其子供の身躰の樣子を知つて居れば大相療治も仕易い、又貴婦人がたの方でも安心して治療をして貰う事が出來ます。其他平生衛生上の忠告をするにも誠に都合が宜しい、夫故醫師を最初に擇んで其後は取り換へず、即ち家醫として定めて置いたならば雙方とも大に都合がよろしい事であります。

夫れから最初に擇んだ以上は其醫師を充分信ずると云ふは必要なる事であゝ、人間の神經は妙な者で、醫師を信ずると信じないに依つて大變に相違が有る、藥も同じで有つて又其人の技倆も同等で有つても、己れの信じて居る醫師の治療を受くれば早く癒る、又信じない人では何うしても癒らんと云ふ樣な事が有りますから、一度擇んで結果か好かつたならば、大事にして戴かねばならん。醫師も自分は此家に信じられて居ると思へば成るべく其信を落さない樣に仕樣と思ふは人情であるから自分の出來る丈けの技倆を顯して治療を盡したいと思ひます、之に反して病家が醫師を信じて呉れないと、醫師も飽くまで治療に力を盡さうと云ふ氣は出ない。併し玆に御在の御方々にはソウ云ふ事は萬々無いと信ずるが、私の老婆心で念の爲めに申し上げたので御座います、

又家に依つて醫師を換へる事を何とも思はない、流行につれて醫師迄も換へる人が有りますが、元より治療をするのは長くかゝるものであるから、醫師は初めは「何處迄も此病人を癒して遣らう」と思ふて居るに、一週間或は二週間位は治療を受けては止める樣では、醫師も大に不愉快を感じます、又中には重い病氣になると心配であるから、家中が騷ぐのみ

ならず親類達迄も騒ぎ出して其人達の云ふには、此處の醫師が好い、彼處の醫師か好いとか或は灸の名人があるとか御祈禱の名人があるとか云ふので、今迄の醫師は體能く斷つて外の醫師に懸る。これ親族は充分親切を盡す積りであらう、けれども病人には此上なき難有迷惑である。醫師が折角見込みを立て診斷を附けて着々進んで往かうと思ふて居る處で、止して仕舞つて又新たな醫師にかけられては、病人の爲めにも不幸、醫師に取つても是れ程不愉快な事は無い、又醫師に對しても甚だ失禮な所爲である。醫師の口からかゝる事を云つては、自分を贔屓をするやうであるが、併しながら是れは實際で御坐いますから、何卒ソウ云ふ事の無い樣に致したいものである。

夫れから又上流社會の人が少しく重き病に罹ると、多勢の醫師にかゝりますが、私は是れは不賛成です。

貴婦人方も御承知の如く、國家に取つて大切な人、即ち大臣とか參議とか云ふ樣な高貴の人が病に罹ると、醫師の集る事非常である、內科であれ、外科であれ、婦人科で御坐れ、殆ど東京中の名醫は皆集ると云つても宜しい位いであるが、私は幾ら身分が好くつても夫程に仕ないでもよろしからうと思ふ、夫れでは却つて害のある事と考へます。何故なれば其治療法に就て醫師ども各々意見が有るから、此の名家が斯う云へば、あの名家は斯うと云ふ樣に說が違つて居る。故に相談の上場合に依ると、名家の說も容れられず、却つて平々凡々の者の說を容れられて、爲めに不幸の結果を招く事抔も有ります。夫れとは多少事柄が違ひませうが、獨逸皇帝が病氣に罹つた時に、大騷動が始つたので大勢の醫師が預つて居つた、其中に一人妙な者が有つて頻りに自分の意見を主張し、遂に其說の通り行つたが夫れが爲め癒るべ

きものも癒らなかつたと云ふ様な事が有ります、から、豫て好い醫師を賴んで置いたならば其醫師に任せて置くが宜しい、そして若し其醫師が外の醫師を招いで能く相談をして見たいと云ふならば、夫れは格別であるから其人の云ふ通りにするが宜しい、又國家に樞要の人を預つて居れば、醫師の責任が重いから從つて治療も能く出きます、夫れを若し大勢の醫師で分擔すると、一人の責任が輕くなるから詰りの結果は誰れが一番の責任を負ふと云ふ者が無くなつて仕舞つて、病人に取つては甚だ不幸な事で有ります。

夫れからして醫師を尊ぶと云ふは、病家の最も務むべき事で有る、古來より醫師と云ふ者は尊ばなければならん者と定まつて居る、自分では充分醫師を尊ぶ積りでも却つて醫師の氣を損ずる様になるから、醫師を尊ぶには道を以てしなければならん。醫師の境界と云ふ者は隨分苦るしきものである、人の生命を預つて居ると云ふは非常に責任が重い、夫れ故醫師と云ふ者の生活を考へて御覧なさい、醫師は通常の人の如くに樂をしては居られない、いつも窮々として病家を飛んで歩かなければならん、實に堪へ難き炎天の日でも又烈寒肌を刺すが如き時でも已れの預つて居る病家を一々見舞はなければならん、夫故官吏或は普通の職業を取る人には餘程生涯が違つて居る。又醫師の方の規則として樂しみをする事抔は禁じてあるから何とも思はぬ、又夜中起され抔すると幾ら醫師でも隨分いやな事も有るが、人の生命を預る上は、縱令雪が降らうが雨が降らうが千里を遠しとせずして出掛けなければならぬのは當然な事です是れ程に醫師も力を盡すので有るから、病家でも少しは察してやらなければならん、迎ひに來れば醫師は一通りの機械を備へて病家に往つて見れば、病

人はハヤ快なつた抔と云つて居られると隨分心持ちがよく無い、併し夫れは癒つたのですから結構な事ではあるが、診察をして見て成程是れは斯う〳〵云ふ病氣である、打ち捨てゝ置いては御心配であるから早速藥を上げますから、拙宅迄取りに來て下さいと云ふと、（病家で其病人が輕い病氣であると思ふと）御藥は明朝戴きに出ませう抔と云ひますが、其時の醫師の感情は何う云ふものであるか、其言葉は病家として醫師に對して言はるべき事ではない、醫師は賴まれし事故與夜半態々見舞ひに來たのであるに、自分は夜藥を取りに往くのはいやだし、車夫を賴むのもおッくうだ、女中を起すのも氣の毒だと云ふ處から明朝早速戴きに出ますと云ふ返事、兎に角藥を上げませうと云つたならば、直樣飛して往かなければならぬのです、是も富裕に暮して居る人は格別ですが、先づ中流社會普通の家では多くソウ云ふ風がある。夫れでは病人に對しても不心得であるし、醫師に對しても失禮である。醫師に診察を受けたならば一分時も早く藥を飲せると云ふは醫師に對し、又病人に盡すの義務ですから、少し位の事は堪へ忍んでしなければなりません。最も醫師は夫れ位いの事は始終堪へ忍んで居るのですが、私の樣な者が有つて偶には皆さんに御咄しするのが好いのです。元より私が貴婦人方にソウ云ふ目に逢つたからとて云ふのでは無いから、私にも又罪は無い、玆に御出の御方には決してソウ云ふ事は無いのです、ケレども斯う云ふ事を貴婦人方に御咄しして置いて漸々と下等社會に迄普及して往きたいと思ふのです。

又醫師に診察を受る以上は、診察料を出さなければならん、平生は能く節儉をして金を溜めて置いて、病氣になつたならば醫師にかゝると云ふ事は能く心得て居らねばならん。私の友人に支那に往つて居る

人が有りますが、其人の咄しに常に支那人は斯う云ふ事には禮が厚ひそうです、そして日本の人は醫師に禮が薄い、中等社會下等社會の人は醫師に充分な禮をしない、ソウ云ふ人は詰り自分の生命を輕くするのです、實に支那人は生命を大切にして常から病氣になると云ふ事を心掛けて居つて、病氣に成つて醫師にかゝれば禮を厚く仕なければならんと云ふ事を兼ねて心得て居るから平生は誠に節儉に致し、イザとなるとドン／＼金を出して療治を受けるそうで御座います、夫故日本と支那との醫師の禮を比較して見ると、支那人の方が余程厚いと云ふ事です。實に人間が生きて居る以上は病氣をすると云ふ事は豫て用意して居らねばならん。そして醫師に禮を厚くしても、醫師の方では禮の多寡に因つて病人の取り扱ひを違へると云ふ樣な事は無いが、併しながら百人に一人位いは何うしても禮の厚い者には、夫れ丈け報酬が厚く往くと云ふ樣な事が有るかも知れない。斯樣な事を申しましたなら、皆さんは「芳賀は金が欲しいものだからアンな事を云ふと」仰せられかも知れないが、併し此事は當世世間に喧しい所の醫藥分業論杯にも大變關係のある事で有ります。元來日本では醫師から藥を出して居りますが、西洋に行くと醫師から藥を出すと云ふ事は無い、夫故日本でも早く醫師と藥と分業しなければならんと云ふ事を、頻りに唱へて今日醫會杯に於ても一大問題と成つて居るが、日本には好い藥劑師も澤山有りませんし、醫師で藥を出した方が都合も宜しう御座います、又病人も醫師から直ぐ藥を貰ひたがつて居る、夫故病人の方でも追々に醫藥分業の精神で醫師には診察をして貰う丈けで、藥は外で取ると云ふ樣にして戴かなければならん、幾ら實業者が醫藥分業を唱へても肝心な人民が其氣にならなければ、迚も行はれる筈

は無いから、夫れには皆さんの方でも段々に改良をして往かなければならん、則ち醫師に對して診察料を拂はなければならん、若しも藥は藥劑師から買つて、醫師には診察料を拂はなければ、醫師は忽ち財布が空に成つて一寸時も生活する事が出來ない、夫故何うか醫師が生計を立てゝ居るに（醫藥分業しても）差支へない様に、貴婦人がたの方で醫師には診察料を拂ひ、藥は調劑師から買うと云ふ様にして、西洋人の誹謗を受けない様になれば互に幸な事で有ります。

其外病家が醫師に對する心得は本にでも書いたならば澤山有りますが、先づ是れ位にして置きます。實は私も疾くより此事を考へて居りましたが、余り己れの田に水を引く様な事計りですから遠慮して言はんで居つたが、併し實際其通りで有るから或人に咄しました處が、大變感服して呉れたです、誠に貴下の仰せの通り、是れから醫師を頼む以上は貴下の仰せを守らう」と云ふ人が有りましたから、夫れに甘へて尙ほも本會のお方々に迄申上て賛成を得やうと思つたので有ります。

人の骨組に就て

大澤岳太郎君演說

大澤とよ子筆記

私は人の骨組みに就て少しく御話しを致します。是れまで諸先生方が本會に御出でになつて、育兒法養生法などの御話しは度々御座いました樣ですが、私は商買違ひで、衛生上の事などは少しも存じませんから申上る事も御座いませんが、只此の人躰の骨組みと云ふものは、何う云ふ風になつて居るかと云ふ事をお話しして、多少衛生上の御參考にもなれば好いと思つて出ました。

一躰骨と云ふものは極く固く緊乎したもので御座います。又人間の身躰の中に何の位骨の数が有るかと云ふに大抵二百位御座います、其中頭に附いて居る骨が二十二、脊髄が二十六、其外胴手足等に附いて居る骨を加へると都合二百になります。そして其骨がいろ〳〵の形をして居つて一定の形ではありません、長いのも短いのも平たいのも四角の骨も有ります、又或る時は杓子の様な骨もあつて、千形萬㒵迚も一言に盡す譯にはいきません、是れが二百寄ると一の人間の骨格と云ふものが出來る。其骨の附工合は或時は骨と骨とがピッタリ付く所が有りまするし、又所に依ては骨と骨とが動く様に附いて居る處も有ります。ピッタリ附くのは縫合など云ふ者で動く様に接合するは關節(俗にロクロ)と申します。例へば頭の骨は動かない様にピッタリ附て居りまするし、手足杯は動きます、此の動くのは關節の媒で有ります。それで此様な種々の骨は何の役に立つかと尋ねて見ますると、第一に人間の身躰を支へて居る。又身躰の器官を保護し其外運動の役に立つ頭の骨は頭の中に在る腦と云ふ大切のものを包んで置く、又肺臓心臓杯と云ふものを包んで置くのも骨、顔の中の最も大切なる處の鼻、目杯を圍つて置くのも骨で御座います。それから又脊骨は骨の中に穴が有つて其中に腦に續く所の脊髄と云ふものが有る、ソレを包んで居る。此腦髄脊髄は最も大切な貴重なもので有る。御承知の如く手足を運動するのも腦脊髄の主どる處で有る併しながら我々が歩くにも若しも足に骨が無ければ歩く譯には往かん。斯う云ふ風に何處にでも悉く骨が有つて而して躰の土臺を拵へて置く。何故骨が此土臺になるかと云ふに、骨の中には固い性質の物を含んで居るそれ故緊乎する事も出來る、若し骨が柔らかゝつた時には立つ事も坐る事も出來

ません。又其骨の固く、且緊乎さは何の位かと云ふに、木杯よりは餘程強う御座います。同じ人間の身躰の中でも肉は柔かく骨の固いのはどう云ふ譯かと云ふに其の中の分子が違ひます。骨と云ふものは當り前の肉と違つて石に成る性の物を含んで居る。人の身躰は有機分と無機分とで出來て居るそして其石になるものは、骨に多くあります即ち大人の身躰の骨には無機分が多くて有機分が少ない、其有機分と無機分との割合は例令ば此中(無機分と有機分)を一百にすれば、有機分が三十三、無機分が三十七で、是れが大人の骨の有機分と無機分との割合で有る。又子供老人にあると大變に壯年の人の割合とは違ひます、子供の骨の中には無機分が兩方(有機分と無機分)加へたもの丶二分一丈けで則ち無機分が少ないので有る。ソレに反して老人の方は矢張り兩方加へたもの丶八分の七丈けが無機分で御座います。併しソレも年に依つても違ひ、又其人の骨の性に依て違ひますから、一概には云へないが大抵此の割合で有る。ソウしますると大人老人子供とは骨の性質に大變違ひが出來る。子供には石即ち無機分が少ないから柔かい又老人は石(無機分)が多過ぎて有機分が少ないから固過ぎて脆い。

此無機分有機分の多い少いは直ぐ見る事が出來る、骨を燃すと有機分は燒けて仕舞つて無機分の方が殘る、又石(無機分)の方も或る藥で抽くと有機分計り殘つて柔らかくなる(實は今日骨をお目に懸け樣と思つて持つて來ました、(無機分を抽きし骨と通常の骨とを示す)

御覧の通り當り前の骨は緊乎して居りますが、石の部分を抽くと此の通り(骨の柔かきを示す)柔かくなつて仕舞う。此固い當り前の骨を燒くと柔いものだけ燒けて此通りの形で石が殘ります。骨に無機分が

有ると云ふ事は要用で有る、無機分が無ければ骨は何の役にも立たぬ。又食物の加減に依つて骨の中に無機分が這入る事が出きない事がある、日々食するものゝ中に石となるべき性分を含んで居らぬ時は、無機分が少ない。假令ば鳥抔に餌を與へるに其餌の中の石になるべき部分の物を取除けて仕舞うと、其鳥の骨が柔くて完全の骨になる事が出來ません。又無機分が有り過ぎると骨が脆くなるソレ故老人抔は無機分が殖えて却て骨が脆く破れ易くなります。骨と申すものは有機分と無機分とで成立つて居るもので大抵今申す樣な工合で、時によると折れる樣な事が有りますし、(折れる事は私の商買とは違ひますから委しくは申しませんが)又ロクロのはずれる事も有る、其外に私の第一に申して置きたいのは子供の骨、子供の骨は今申した通り石になるものが少ないから柔かい、ソレ故子供の中はからだを扱ふのに大切にしなければならぬ、子供の骨は柔かいから其形ちも變り易い、故に子供の帶を固く占めたりなにかすると骨が縮まつて胸が小さくなる、胸が小さくあれば、自然と肺抔の病を引き起す虞れが有りますから、餘りかたく占めない樣に仕なければなりません。又此方には餘り御座いませんが西洋でマルセットを固く占める事がある是は極く好くない、又支那では女の足を小さくする事が流行るが、書物を見ますると隨分小さい骨になつて居る、其小さくする期限は二歳から八歳頃までにするので、まだ柔かい中で御座いますから自由に出來る。で、又亞米利加邊りの人民は板の上に子供を縛り付けて額に枕の樣なものを當てゝ縛つて置く、ソレは何の爲かと云ふに頭の恰合を好くするためで圓い頭を長くする爲めに前方から縛るので有る、ソウすると上の方に頭が延びて長い恰好になります、今畫を書いて見ますると、

(圓形と長形との頭を畫きて示す)斯う云ふ樣に少し長くなる併しながら此等蠻民は個樣な頭を以て却て誇つて居ると云ふ事です斯くの如く子供の骨は凡て柔いもので有るから好く注意しないと、形を奇形にする事もあるし、ソレに從つて害もあるから此邊を御注意願ひたい。

又老人の骨も無機分が多く、骨が脆くなつて居るから鳥渡梯子段を踏みはずした位いで、當り前の人ならば何んともない事でも老人は直きに骨が折れると云ふ如き事が有りまするから、其邊も御注意を乞ひたいと思ふのである、又世間にはからだの曲んで居る者、脊骨の眞直に延びて居るべきものが却つて曲つて居るものが有る、ソレは幼い時學校杯に往つて机の工合が惡るいとソンな所から脊骨が曲る樣な事が有ります。凡て是等は子供の中骨の柔かい時分の取扱ひに因りますから子供の中の取扱ひは極く大切なるもので有ります。

ソレで今日は人の骨組は斯く〳〵のものであるから、注意しなければならんと云ふ事丈を一言申したので有ります。此序に申しますが小兒を負つたり抱いたりするにも輙もすると骨に曲りを生ずる事もありますから一寸と一言附け加わへまして御注意を仰ぎます。

肺癆療法新發明に付き素人方の心得

長與專齋君講演

私は今日の御集會に、なにかお咄しを致すお約束を致しましたから、取り敢へず爰に掲げて有りまする問題に就て、お咄しを致そうと、思ひます。

爰に掲げて御座いまする事は昨今の出來事で皆樣も新聞杯を御覽になつて粗ぼ御承知で御座いませうが、兎角新聞に出て居る事は片々になつて、責めるもの

は賞め、悪く云ふものは惡るく云ふと云ふ樣に一方くにのみ偏し、是を取り纏めて「大略此んなもので有るとか斯う云ふ風な覺悟をして居らんではならぬ」と云ふやうな御判斷を、皆樣に與へる程には參りますまいかと考へまして、今日は此事を御咄し致して見やうと存じます。

一躰肺病と一口に申しますが、其實は肺癆……今度其肺病が癒ると云ふ事が新聞に出て居りますがそれは肺病の中で肺の結核が癒ると云ふので御座います。御承知の通り肺癆と云ふものは、昔しから先づ死ぬものと極つて居ります。又昔しは肺癆と云ふものは傳染病であると云ふ事も解らず、ドンなもので有るか分明て居りません。只肺癆に罹れば咳が出て熱が出て次第に弱り、遂に死ぬので、到底醫師のお藥でも、神佛の力でも、癒る事が出來ないといふことが極つて居りました。然るに八年計り前に獨逸の「コッホ」と云ふ人が、肺病の原因は斯う云ふものが有つて肺病と爲り、ソシて斯う云ふ譯で傳染るもので有ると云ふことを發見しました。ソレまでは親讓りとか兄弟に在るとか、凡べて血續きの者に病人のある時は、其子孫に遺傳するとのみ思ふて居りましたが、病氣の種を發見しましてから、傳染病と云ふ事が定まり傳染するに就ては防ぎの仕樣が有る。即身躰を大丈夫にして置くときは、此肺病の毒は害をせぬといふことになり。近年温泉に往くとか轉地をするとか、海水浴に往くとか平日身躰を強めると云ふ事が流行つて來たのも、幾らか此肺癆の傳染するのが分明つてから以來で、之は豫防するの心持を含み大層世の中に影響を及ぼしました。併し此豫防法とても確かに豫防する事は出來ません、何故ならば肺病が素人の氣に付き目に掛ゝる樣になつてからは、最早如何程に手を盡しましても、榮養物を食べまし

た處が新鮮の空氣を吸ひました處が、中々オッ、ク譯では有りません、只病人家族の氣休めになるのみであり升。其事は醫師の心痛して居るのみならず、だん〳〵世の素人方も……（殊に肺癆は世の中の物の道理が解つた人に多いから）肺癆は恐いもの、誠に困まつたものだと云ふことは好く御承知になつて居る事と考へ升。此病の豫防法の事に就ては本會に於ても諸名家の演說も有り、私も肺癆を傳染するものであると云つて、痰や何かの事に就て御咄しを致しましたことも御坐り升が、實際には何分其利目を見ることも少なく、其上聰明なる人が多く此の病氣に罹ります、且此病氣になると夢中で物事が解らなくあると云ふ樣なことはなく、却て氣分は益々銳くなりますから、他の見る目も忍びない程であり升。醫師も肺癆であると云ふ事は何分云ひ兼ね成丈病人には知らせぬ樣に心を配り、肺癆とは云はずに氣管支加答兒とか何とか云ふ樣な事に云ひ紛らして置て、家族に解つた人が有れば其人丈けには申して置くことがありますが、家族と申しても家族次第、又場合に依つては知らせずに置くことが多い、それゆへ夏なれば秋風が立つたら癒りませうとか、冬で有れば暖かになッたら癒りませうとか云ッて日を送ッて居る間に、其病人が癒ッたら學校に行て斯う仕樣とか、好くなッたら花見に往うとか、後日に望みの有る事を云ひ出されたりすると、醫師も血續の人々も實に何とも咄しの仕樣もない嘆はしき次第で……而して此病にて死ぬるものは大抵皆聰明で殊に若い人に多う御座いますから、行く末は家の爲めにもなり、國の爲めにもなり、末賴母敷思ふ人がバタ〳〵死に升。其上に全國中の死亡の七分の一は此肺癆で死ぬと申す位ひで、日本國中一年には九万十万の多くの人が年々死ぬので有りますが、其人達は一人で十人百人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にも當る程の役に立つ人々で御座いまするから、家族の殘念は申すに及ばす、一國に取りましても容易ならぬ損害で御座います。例之ば外國に留學して居る人は、多くは日本の學校に居る時に成績が好いとか、又は先きに見込みの有る人で、皆勝れたる方々で御座いますが、其留學生の死ぬ事は實に割合に澤山です。ソして其病ひは何かと云へば多くは肺癆であり升。斯樣な譯で或は時として虎列剌が流行り、脚氣室扶斯が流行ッて五万死んだ十万死んだと云ふのは、其時は大層の樣に聞へますが、毎年死ぬものではない肺癆で死ぬのは毎年照り降りなしであり升から、實に大層なもので、其上下等の社會のものが虎列剌に罹ッて死ぬ抔とは違ッて、其損耗は如何にも大したもので有る、然るに肺癆の種を發見しました「コッホ」と云ふ人が、人間の肺癆を癒すと云ふ事を申した。併し其時は動物の上で試驗をした丈けで、確かな事は申しませんが、今から百日の後ちには多分人間の肺癆も癒るに相違ないと云ふ事を、昨年八月獨逸に開きたる萬國醫學會に演説を致しました、此「コッホ」と云ふ人は前にも申たる通り肺病の毒を發明し、又虎列剌の毒も發見した人で、平生から滅多な事をいわぬ確かなる學者で御座いますから、「コッホ」が肺癆治療の事を申したならは、彼人の申す事故多分間違ひは有るまいと云ふので、世の中の醫師のみならず、全世界の人が多く望を屬して居りました處が、果せる哉其後十一月十三日に人間の治療を施して見た處が、初め「コッホ」の申した通り初期の肺癆は癒る、肺が壞れて仕舞たとか、又久しく病み附いて毒が身躰一般に廻つて、ひどく身躰が衰弱して居るとかいふものには、最早致し方は無いが、初期の内の肺癆ならば癒ると申し升た。其時には其藥も示し用いる方法も示しましたに依つて、ソ

レではと云ふので獨逸、英吉利、佛蘭西、亞米利加、等の國々でも「コッホ」の演說が有ると、直ぐに各〻國々に報告を致して其方法を受けたる國々、並に藥の手に入りました國々は、試驗に取懸り種々樣々に手を盡して試みました處が、如何にも初期の者は癒ると云ふ成績になりました。最も初め輕い時と云ふは此處までが輕い、此處からが重いと云ふは、病人に符牒の付けてあるではあらし、其見合けは別段區域が有るのでは無く全く醫師の眼中に在る事で、其判斷の附け樣に依りましては、人々の見解が違ひますから、一概には申されませんが、兎に角輕い病氣なれば癒る。ソコで今まではドウしても癒らぬ病氣が、輕い中なれば癒ると云ふ有樣になつた以上は……早く氣が付けば確かに癒ると云ふ道の開けた以上は、實に世界一般の幸ひである。尤も今日までに既に病が重りて居る衰弱極つた人々には、致方のありませんが、是れより後肺癆に罹るものは必ず一旦は輕るい時が有るに相違ない、如何ある重い病氣でも必らず輕い時があッて重きに移り、始めが有ッて終りに移る事に相違ありませんから、初めに癒ると云ふ事が解ッた以上は病の輕き時に手後れなく療治を致しますれば、此先き肺病は次第〱に減りて、遂にはなくなりますと云ふ程に結構なる方法が出來ました、然らばドの位ひの病氣には効が有るか、ドの位ひの病氣には力が及ばないかと云ふことは、今日世界各國在らゆる病院で研究して居る其最中で御座いますから、其中には猶又委しい知らせも參りませう、又ソレ〱醫業に從事して居る諸君達は油斷なく其事を研究なすッて、藥をお用ゐになるで有らうと思ひ升。誠に衛生上頼母敷悅ばしき事であり升。ソレに就て今日私は皆樣にお話しを申上げて置き度いと思ふのは、斯の如く結構なる療法で死ぬるもの

が生きると云ふ程の事であり升が、其藥を用ゆるには余程精密なる注意を要しまするとことにて、醫師が藥の調合をして置けば一日に三度とか四度とか飲めばよいと云ふ様な手軽るな事にてはなく、又其藥は飲むのではなく針の附いた管を以て皮膚の下に注入するのであり升、(ソレには傳授が有りますが爰でお咄し申すに及ばない)是れを注入すると大變に熱が出る、ソレを一時間毎に熱の度を計らなければならん。瞑眩せざれば其病癒へずと漢學者が云ふた通り、大層瞑眩する藥にて四十度以上の熱が出る、熱が出れは頭痛もし曲節も痛み吐氣も起ります。凡てインフルエンザノ強いの様になる。而して翌日になりますと熱もズット下ッて、いろ／＼の諸症も退き升、ソレから一日措いて翌日に又藥を差しまするると、矢張り熱が出る、併し前日よりは幾らか軽い(塲合に依ッて軽るく無い時もありますソウ一様にも云へませんが)一度よりは二度三度と段々病が軽くなれば、熱もソレに順じて少なくなる、元より病が有ッて其病を潰すに就て熱が出る故に、病氣の軽い重に依ッて熱度にも高低が有る、病が軽るければ熱も少い、重ければ熱も強く出るので御坐います、それゆへ一時間／＼に熱を計り、其他の容體にも時々刻々に心を注け其現はれたる處の容子に依ては、直にソレ相應の手當を加へなければならん、中々是迄の通りに藥を飲むのとは違ひ、自宅治療とか病院に通ッて療治を受ると云ふ様な手軽るな事では出來ない、此療治を受るには是非とも名人の醫師が主となり、心得たる助手も看病人も揃ひ、器械萬端十分に備はり整ひたる病院に入りて、其名醫の指圖を受けて晝夜油斷なく看護をする人々の世話にて、療治を受けねはなりません、又斯くの如く綿密なる治療法で御座いますから、病氣の重い丈け瞑眩も強う御座います。

故に殊に依りますると瞑眩の爲めに殪れる事が有る、病氣は此處許りと思ふて居ると結核（病氣の毒）が那方此方に有つて、身躰は衰弱して居りまするし、藥の瞑眩に打勝事が出來ずして、死ぬ事もある、西洋の貧病院の人で餘程重い肺癆故、最早藥を用ゐても其効は無い、却て命を縮めるから止めろと云はれたを、イヤソレでも到底治らぬ病氣にかゝり升たから、折角斯う云ふ發明が有ツて其療法で死ぬのは決して厭はないと云ふので、ソレでは死んだら解剖をするか宜しいかと、ソレまで約束して治療を施した所が、果して死にました。依て解剖して見た處が最初病氣は一部分と思ふて居ツた所が、其處のみならず諸處に毒が廻ツて居りました成程此の毒を殘らず潰さうと云ふには大變に熱が出るから身躰は纔かない譯であり升、扨斯う云ふ風に悪くなツてから身躰の度合を計ツて治療すると云ふは甚だ際どい事で御座いますから、素人方は手遲れにならない樣に早く醫師に懸ると云ふ事を御注意なさらんければならん。皆さんの御子供さんなり御親族のお方なり、時々咳が出て、風を引き易く、次第に痩せ、甚だ敷きに至つては寢汗が出で、熱が出ると云ふ樣な事が御座いましたならば、一刻も早く醫師に見て貰うのが肝要で御座います。

又醫師が見るにも一通り手を握り、舌を見、腹を探り、少し念の入つた醫師が胸を叩き、聽診器を胸に押す……。と云ふ位では往けない、ソンナ事では到底結核病の判斷が出きるものではない。世の中が開けて來れば、醫師の方でも其れ丈け進んだ手數を執らなければならぬ、此病氣に毒の有るもの故、痰其他の排泄物を顯微鏡にて吟味をとげ、其病毒を顯微鏡の下に見出した後にこそ、始めて結核と云ふ名が付くものであり升、ソレをよい加減に治療されても

叶はない、又知りつゝ見逃して措かれても叶はない、吟味の出來る事は充分に吟味を致さんければ其病毒を見出す事は出來ない。如何なる名醫でも顯微鏡に掛けて見ない中は「是は肺病で御座る」と云ふ判斷は出來ぬと云ふ事は、今日でも日本の醫學社會の者は心得て居ッて、而して痰の吟味を爲さらぬのは、如何なる譯かと云ふに、痰の吟味をして……ドチシにしても分明た以上致し方がない。又一々顯微鏡を持て病家に往かれるものでもなし、家に取り寄せるを傳染病故危ぶみも有り、多少手の懸る面倒なる仕事で有るから……と思いて等閑にして措きました。併し先づ今日まではそれでも濟んだ、と云ふものは、其病氣が分つたにせよ分らぬにせよ、生死の關係が無かつたが、是から先きは生死に係りますから、是非とも撿査しなければならんに就ては、皆様方も醫師を選ぶのに、學問の有る、經驗の有る、其術に長けて居る、殊に顯微鏡其他の器械も備へている、此人なれば吟味をするに足ると云ふ事を見極めて、御賴みになるのが今日の必要で有ります。

結核と云ふ毒が、肺に附いたのが肺癆で、其外身躰中に附かない所は無い、曲節が腫れたり、內部では腹、腦、咽喉が普通に附く場所で御座います。併しソンな面倒なお咄しを致した所が、皆様に御鑑定の附く譯でも有りませんから、委しいお咄は致しませんが、子供が手足膝等の節が痛んで次第に身躰が瘦せ、寢汗が出るとか、熱が出るとか、或ひは首筋にグリ〱が出來たり、身躰が次第に瘦せ、なんとなく痛り惡い樣な有樣にあつたものは、早く醫師にお見せになる事に御油斷の無い樣に願ひたい。其先きの事は全く醫師の胸中に在る事で皆様にお咄し申した所が御解りになりません。

今日私が皆様に申した事は、今迄肺癆と云ふものは

癒らぬものだと極ッて、死ぬると極まつた病氣で御座いましたが、癒ると云ふ道の解つた以上は、成る丈け早く醫師に御見せにならなければならん、而して同じ醫師でも、充分學問有り、經驗有り、又其術に長けて居る、且つ顯微鏡其外の器械の充分に備へて居る醫師に、判斷をして貰はなければならん。ソレ丈けの事を御注意なされば肺癆でも其他の結核でも、今迄は九死一生所ではない、死ぬに極つて居つた病氣が、今日は癒ると云ふ道の開いたに、就ては迂ッ濶して居る間に生きるべきものも、死ぬ樣な塲合にならせん樣にするのが必要で御座いますから、早く醫師にかゝると良き醫師を選ぶと云ふ事、又此療治を受くるには是非とも良く整ふたる病院に入らなければならぬといふ事を御話し申上升。猶此事に就ては只今世界の醫師の名人が研究最中であり升から、遂には色々の說も起りませう、從ては吟味もます〳〵くわしくなりませうか、何分日本にはまだ其藥もつきませず、實地に吟味いたした事でもあり升せぬが、大切の事であり升から外國の新聞などにしるしてある事柄をとりあつめかいつまんで、御素人方の御心得まで御咄し致して置き升。

右速記法女子研究會員

大澤豐子速記

衛生叢談

○疱瘡の病毒は傳染する力の甚だ猛烈なるものでありまして往々一枚の弊衣より病毒を傳へて遂に無數の人を害す實に恐しき者であります疱瘡には種痘の如き万全の豫防法がありまして其害を免るゝ事ができますけれ共度々種痘をなさゝれば安心とは往きませんから若しも近頃の樣に追々發生するに方りては之れが豫防を怠りてはなりません疱瘡又は之れに疑

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

似たる患者ある家にては患者の外未だ種痘せざる小兒は勿論再三種を了りたるものも種痘をなしたる後五年以上を經たる時は臨時に種痘をなすこと患者の外に小兒あるときは成べく小兒なき家に避けしめなければなりません若し其兒童小學校幼稚園に通ふ者なるときは三週間を經過するまで學校へ往く事幼稚園に往く事を差し止むる事又患者は居室を定め看病人の外他人の交通を絕ち居室は常に掃除して淸潔になし絕へず空氣の流通を良くし患者の痘漿を拭ひたる布片紙片又は落痂及び室内の塵埃等は必す石炭酸水を入れたる器中に入れ後ちに此汚物は藁鉋屑等に石炭油を灑きて之を燒き棄てることとしなければなりません看病人患者の居間を出つるときは先づ石炭酸水又は昇汞水にて手を洗ひ後淸水にて洗ふ樣になしすべて患者の用ひたる衣服臥具敷物玩具飲食器看病人の衣服其他痘漿に汚染し又は汚染したる疑ひあるものは蚊蠅等の聚まらさる樣に注意し之を取り纏め毒消法を行ふべし痘瘡發生したるときは病家近傍の家々にては成る丈け患者ある家と交通をなさゞること種痘後五年以上を經たるものは臨時に種痘し若し痘瘡に疑がわしき患者は速に醫師の治療を受くる事等は至つて必要なることであります東京市痘瘡患者發病は本月二十一日赤坂區女二人、芝區女一人本所區女一人深川區男一人女二人麻布區女一人下谷區男一人にて本月二十二日は深川區男四人女三人芝區男一人本所區男二人にて群馬縣の如き府下に於て天然痘發生し稍々蔓延の景況ありと認めたるに因り管內一般に種痘を怠らざる樣諭達し又福島縣にても同樣諭達せられたりと皆樣御用心が緊要で御います。

雜錄

○東京府傳染病患者　痘瘡患者發病は本月十九日深

川區男三人赤坂區男一人神田區男一人女一人本所區男一人腸窒扶斯患者發病は同二十日監獄石川島分署男囚四人荏原郡男二人ありしと

○流行性感冒患者　京都府管内に於て去月中届出の流行性感冒患者は三千二百十九人にして内死亡三十六人あり目下大に減退に赴きたれども尚ほ全く跡を絶に至らずと云ふ。

○東京市十五區出産死亡週報　麹町區外十四區に於ける本月十日乃至十六日の一週間内出産及死亡届數左の如し

出産五百三十四人（内男二百七十九人 女二百五十五人）

死亡四百七十五人（内男二百四十二人 女二百三十三人）

右の外死胎出産は四十四なり　（右官報）

本會錄事

○二月例會　二月七日午後一時より京橋區宗十郎町七番地大日本私立衛生會事務所に於て例會を開く當時感冒流行加ふるに朝來の雨天なりしを以て來會する者凡三拾餘名定時に至り伊藤隼三君（傷をした時の心得）と云へる演題にて婦人の針仕事をするは一般の事業なるが時としては針のため指の先きなどを刺戟する事ありかゝる場合にはよく注意して其害所に汚物の入らぬ樣になさゞるべからず若へ汚物の入りたる時といへども其初め口にてよく吸ひ出すべし鼠毒蛇病犬に嚙まれたる時も直ちに毒を吸ひ出すか或は毒の廻はらぬ手段をなせば大患を來す事なしと次に榊俶君（精神病とインフルエンザとの關係）と云へる題にて病症日誌を證として講演せられ次に長與專齋君（肺癆新發明に付素人方の心得）と云へる題にて講ぜられ午後五時散會せり

○三月總會　三月　日京橋區宗十郎町大日本私立衛生會事務所に於て總會を開く出席會員凡六十名餘

最初に後半期間の會計報告をなし次ぎに緒方正規君（警察に就て）大澤謙次君（市外運動及市外遊戯）てふ演題にて講演せられ茶菓の饗應ありて散會せしは午後五時なりき

（自明治廿三年九月 至明治廿四年二月）半年度會計報告

收入之部

	円	銭厘
一會費	一七五	一五〇
一寄附金	一九	〇〇〇
一懇親會々費	二六	七〇〇
合計	二二〇	八五〇

支出之部

	円	銭厘
一會場費	九	四〇〇
一雜誌印刷費	四五	一五三
一諸印刷費	三〇	〇五〇
一郵税并通知葉書	二七	六四五
一筆記料	一二	〇〇〇
一筆紙	一	二一九
一三井銀行預金	二〇	〇〇〇
一事務員并會費取集人手當	四二	〇〇〇
一器具費	六	二五〇
一講師饗應費	二	〇五〇
一懇親會入費	三八	六三八
一雜費	六	三一五
一食物研究會々場借料	六	〇〇〇
合計	二一九	七二〇

收支差引

	円	銭厘
一殘金	一	一三〇

三井銀行預金勘定

	円	銭厘
一總高	七九	一五七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一利子　一九三五
合計　八一〇九二

右確實也　會計掛

明治廿四年二月廿八日現在會員數調

一總會員　四百〇五人

內譯

一修身會員　拾一人
一特別會員　拾三人
一贊成員　拾七人
一府內通常會員　二百二十四人
一地方會員　百人
一千葉支會々員　四拾人

(自明治二十三年九月至明治二十四年二月)入退會者總數

一入會者　五拾人
一退會者　二十一人

(自明治廿四年二月至仝年三月)入會者宿所姓名

特別會員(姓名いろは順)

岡田とく子　下谷區徒町二丁目廿四番地

通常會員

井原かぞ子　神田區猿樂町八番地
本多文子　神田區美土代町二丁目一番地
保母りえ子　本所區柳原町一丁目十三番地
保母まつ子　仝斷
保母しづ子　日本橋區蠣殼町一丁目四番地
本多しま子　芝區城山町一番地
戸部〇子　牛込區市谷田町三丁目二番地
大谷嘉知子　淺草區新森田町二番地
大井まさ子
諫早神代子　赤阪區新町五丁目一番地
加納〇子

河村裕子　芝區西久保城山町二十一番地
河津〇子　麹町區飯田町
川村裕子　芝區西久保城山町壹番地
代とめ子　本郷區第醫院
高石とみ子　京橋區木挽町九丁目二番地
田代その子　麹町區飯田町六丁目二十四番地
山崎幾代子　芝區神谷町十八番地
山本みつ子　京橋區山下町八番地
實吉きん子　京橋區木挽町二丁目十三番地
佐々木房子　麹町區永田町一丁目十八番地
湯淺榮子　芝區愛宕下町二丁目二番地
三浦とき子　麹町區下二番町七十四番地
三井晴子　麹町區富士見町五丁目十番地
秀嶋千代子　小石川區竹早町七十六番地
廣千代子
木尾しげ子　青山南町五丁目五十番地

鈴木とら子　神田區北神保町神保醫院
菅野たか子　芝區西久保神谷町十八番地

地方會員

小野芳美子　新潟縣北蒲原郡中條町百卅四番地
兒嶋しも子　播州姫路市東二階町十二番地

男子賛成員

伊東方成君　麹町區永田町
保母國三郎君　本所區柳原町一丁目十三番地
保母一三君　日本橋區蠣殻町一丁目四番地
原田豐君　神田區駿河臺南甲賀町十番地
岡田和一郎君　下谷區徒町貳丁目廿四番地
樫村清德君　神田區小川町四十番地
中濱東一郎君　日本橋區濱町二丁目十六番地
佐々木政吉君　神田區駿河臺北甲賀町十番地
三宅秀君　本所區相生町五丁目三十番地
鈴木萬次郎君　神田區北神保町神保醫院

稟告

○本邦育兒の完全ならざる大識者の常に慨嘆する處にして小兒多數あるが爲か或は慈母を失ひたる小兒の如き徒に山間僻地の村里に保育を依托し爲に兒童の性質を傷害するは往々見る處にして實に一國一家に取り嘆すべき事どもなり本會常に此等の弊を矯正し完全なる育兒法を實施せんと計畫既に久し今や本會も次第に隆盛に赴き會員も益々增加するを以て今回育兒園を創設せんとす幸ひに諸大家の贊成助力に因り規則を編制し將に實施せんとす（規則編制次第次號ニ掲載スベシ）茲に來四月四日をトし芝紅葉館に於て義捐音樂會を開き以て此等費に充てんとす希くは贊成助力あらん事を

當日開會の順序左の如し

一演說　博士　加藤弘之君
　　　　同　　緒方正規君

餘興演奏目錄

一娘踊　　三回
一落語　　三遊亭圓朝
一三回（鶴の巣籠　越後獅子）　山瀨　山室　林岡
一尺八　　原如翁
一能狂言（貰ひ婿　三人不具）　與作　松五郎　外數名

右功符御入用の方々は本會事務所へ御申越有之度候

○本月以降 **每月一回雜誌發行** 致し候に付此段御承知被下度候尤も會費其他は從前之通

○明治二十三年九月以降本會へ寄送せられたる雜誌左の如し

一大日本私立衛生會雜誌五冊　大日本私立衛生會
一大日本婦人敎育會雜誌三冊　大日本婦人敎育會
一普通衛生雜誌三冊　普通衛生雜誌社
一產科婦人科研究會月報一冊　產科婦人科研究會
一三重私立衛生會雜誌六冊　三重私立衛生會
一埼玉衛生雜誌五冊　大日本私立衛生會埼玉支會
一護國之楯二冊　北海道禁酒會
一光一冊　光雜誌局
一高山齒科醫院講義錄一冊　高山齒科醫院
一婦人矯風會雜誌三冊　婦人矯風會

大日本婦人衛生附屬衛生食物研究會主意

衛生の苟且にすべからざるは大方の能く知らるゝ所なれは敢て此に贅せす是夙に各衛生の設あるを以て知らるべし

我等聊感する所ありて曩に婦人衛生會末席を汚し爾來此の道に心を委ね日夜苦慮する事久し是只人生至寶の健康を得し天賜の幸福を全うせんとの希望なりされど衛生の道も順序を追ふて進まざれば其効も空しかるべし衛生の第一に講ずべきは飲食を措て他あらじ次で衣住育兒看護法の必要なる今更云ふをまたずと雖もそは順を追ふて他日之を講究する者とし先づ今日着手の初めに當り食物研究會を起すは衛生上直接に利害ある物なれば此に本會を起すこととはなりぬさて本會は只管衛生の主旨に隨ひ和洋折衷の調理を會員互に研究し料品の滋養の多少等は親しく衛生試驗所の分析を乞ひ物價の廉にして滋養食物調理を研究し併て鹽梅の精巧を得せしめんがためなりもとより貴婦人方に厨下の業は不要の如く見ゆれども衛生を重じ家政を重とするには食物の研究一日も苟且にすべからざるなり以上本會の主旨大畧として書き記しぬ大方の貴婦人淑女御贊成あらまほしくこそ。

衛生食物研究會假規則

第一條　本會ハ衛生食物研究會ト稱シ假ニ麴町區飯田町四丁目二十八番地岡田ミス子方ニ置ク

第二條　本會ノ目的ハ價廉ニシテ滋養ノ多キ食物ヲ撰ミ和洋折衷ノ調理ヲ研究シ會員互ニ是ヲ日々實際ニ行ヒ專ラ衛生上ニ効驗ヲ現スヲ旨トス

第三條　何人ヲ問ハス本會ノ目的ヲ贊成入會ヲ望ムル諸姉令孃ハ直ニ入會スルヲ得可シ

但入會ノ際器具料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第四條　本會ハ當分毎月三回第一第二第三金曜日午後一時ヨリ開會ス

但出席ノ有無ハ開會一日前ニ報知アルヘシ報知ナキハ出席ト見做スヘシ

第五條　本會ヘ參會スル者ハ一回金貳拾錢ヲ會費トシテ納ムヘシ若シ會員外ニシテ臨時出席ヲ臨マル時ハ來會ヲ許ス

但會費貳拾五錢持參アルヘシ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遞信省認可

通信女學第二期生新募集廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして奮發學に就かぬは最とく少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉强をさく年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆な學問と云ふことに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきことと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も玆に入學して日々の進步目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出で通學することも出來ず又家に敎師を引て敎を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せり、吾社之を以て遂に意を決し、昨年一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義錄を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、本年一月に至り、一ヶ年の課業を恙かなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの七百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義錄を再版し、改めて第二回の習讀者を募る。

敎授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學、（衛生、育兒、看病を合す）裁縫、圖入地理、英學。

敎師は、醫學士三島通良、農學士寺尾勝三、織田由太郎、鈴木弘恭、其他重もに明治女學校の教員諸君に委囑し、專ら親切鄭寧を主意とす

代價一冊前金三十二錢（無郵稅）、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。明治二十四年一月廿五日第一號を發兌し以後毎月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし其十二月に至りて全科卒業となす

東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員　太田いく子
鈴木まさ子

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京麴町區三番町六十七番地
嚴本善治

印刷人　東京麴町上二番町四十八番地
八木吉六

秀英舍印刷